

道の点検簿 ～地域住民と協働した交通死傷事故削減の仕組み～

国土交通省北陸地方整備局 金沢河川国道事務所 交通対策課長 石川 俊之
 Traffic and Road Safety Division , Kanazawa Office of River and
 National Highway ,Ministry of Land Infrastructure and Transport

交通安全基本計画の中期的目標である「10年間で、死者数を5,000人(石川県は平成22年までに58人)以下」とするためには、死傷事故率の高い生活道路で交通事故を減らすことが極めて重要である。このため、市民団体や小中学校の児童生徒・PTAと協働制作した「自転車・歩行者交通安全マップ」の交通事故危険箇所(金沢市内208箇所)をPDCA(Plan,Do,Check,Action)マネジメントサイクルに基づき、順次改善している。

改善にあたっては、金沢河川国道事務所が主導的役割を果たし、住民参加に加え、県警、全ての道路管理者と連携し、改善状況がチェックできる「道の点検簿」を作成し、「3年以内に改善」を目標に努力している。点検簿はホームページで情報公開しており、危険箇所毎に「住民の改善提案」「管理者の3年以内改善案」「改善状況写真」「改善率」を見ることができ

<http://www.hrr.mlit.go.jp/kanazawa/tenkenbo>



1. はじめに

加賀百万石の城下町である金沢市は、藩政時代の趣を残している歴史文化が香る街である。それゆえ、市内には曲がりくねった道や狭小な細街路が多く存在し、朝夕の通勤時には多くの車両が渋滞を避け、抜け道を探して生活道路まで侵入している状態にある。歩行中の交通事故死者の約6割が自宅から500m以内で亡くなっているとの統計もあり、小中学生や住民が安心して通学・通行できるルートを確保することが急務となっていた。

<交通安全マップ>

平成14年度より、①行政だけではわかりにくい校区内の危険箇所を住民参加によりきめ細かく情報収集し改善する。②交通安全マップとして取りまとめることを通じて交通安全の啓発を図る。こと



写真-1
 体育館で調査結果を取りまとめる中学生



図-1 制作した交通安全マップの例

を主な目的として「自転車・歩行者交通安全マップ」を制作している。(写真-1、図-1)

<道の点検簿>

自転車・歩行者交通安全マップの危険箇所を「3年以内に改善」を図り、安心して通行できる歩行者・自転車路を確保するため、金沢河川国道事務所がリーダーシップを取り、全ての危険箇所について改善状況を取りまとめている。

平成17年度より、住民参加に加え、県警、全ての道路管理者が協働し、PDCAマネジメントサイクル『計画(Plan)、実行(Do)、評価(Check)、改善(A



図-2 道の点検簿のトップページ
森本地区



図-3 危険箇所改善の一例

No.	箇所名	地元住民の改善提案	担当部局が回答した3年以内対策可能案	改善状況	担当部局	通学路
3	県道215号線、加賀八田バス停5差路	変形5差路の安全対策、地蔵前の電柱撤去。	県:電柱の移設については、道路敷地より沿線の民地に移設するため、北陸電力やNTT及び沿線住民の理解と協力が必要不可欠であり、地元町会等との調整が可能であれば今後検討したい。	未改善 ×	県道215号 県	○
4	才田～忠綱町湖南苑前バス通り	ガードレールの設置(カーブ箇所)。	市:ガードレールの設置。	改善済 ○	市道	○
7	JR線・観法寺踏切	防護柵の設置。	市:ガードレールの設置	改善済 ○	市道、市	○
17	国道159号、百坂プラザ交差点	1 歩道橋の撤去。	国:歩道橋を撤去し、横断歩道を設置。	改善済 ○	国道159号 国交省	○
		2 信号柱の移設。	警察:信号柱の移設	改善済 ○	警察	
20	弥勒町踏切	(現状) 踏切付近の幅員が狭い。 踏み切りの拡幅。	県:踏切拡幅は別の箇所において、JRとの協議に多くの労力・時間を要している状況である。今後長期的に改善を図っていきたい。	未改善 ×	県道201号 県、市、 JR	○

図-4 「道の点検簿」の例(森本地区の抜粋)

ction)』により、確実にフォローアップを行なうとともに、改善状況がチェックできる「道の点検簿」としてホームページで情報公開している。点検簿は金沢市内208箇所の危険箇所毎に「地元住民の改善提案」「担当部局が回答した3年以内対策可能案」「改善状況比較写真」「改善率」を見ることができる。(図-2, 3, 4)

2. PDCA マネジメントサイクルによる取り組み

以下、「自転車・歩行者交通安全マップ」と「道の点検簿」の取り組み内容、PDCA マネジメントサイクル(図-5)の内容について紹介する。

2-1. 【Plan】小中学生が現地調査し交通安全マップ制作

「自転車・歩行者交通安全マップ」は、平成13年度に市民グループ(NGO)「地球の友・金沢[※]」が、「自転車が安全に気持ちよく利用できる交通ルート」を金沢でも確保できないか」との考えから、市内約1,500人の高校生や地域住民の協力を得て自転車マップを制作したことからはじまった。

平成14年度からは「地球の

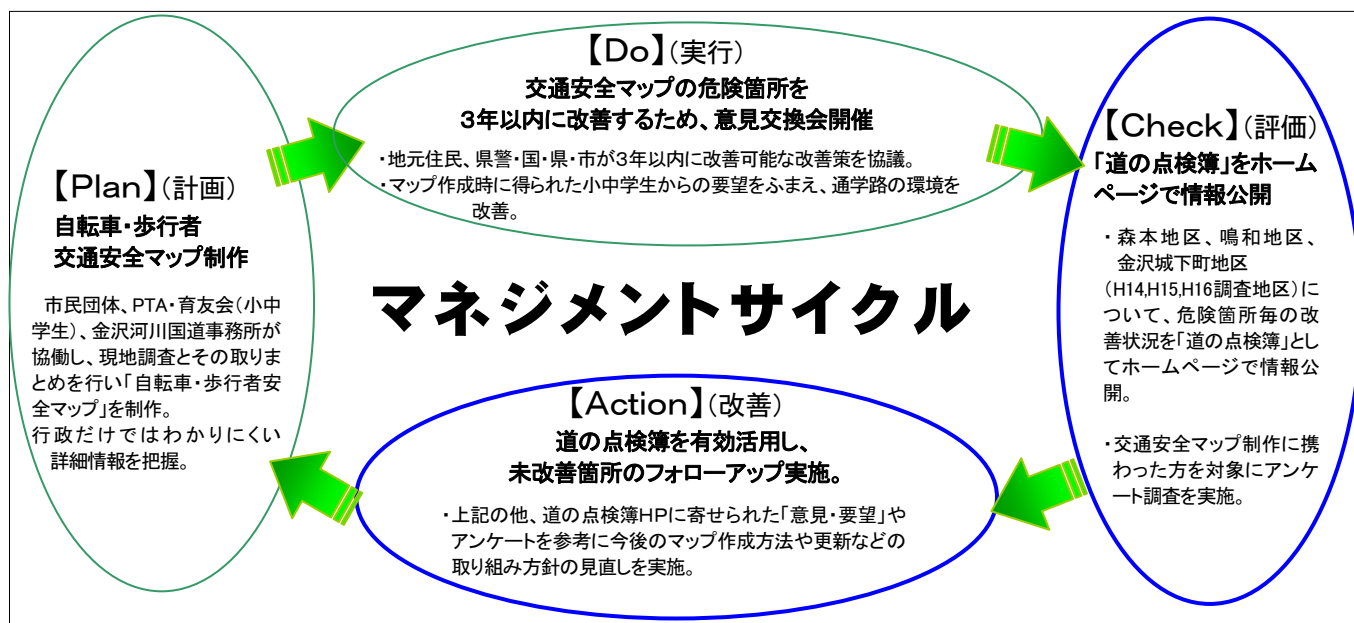


図-5 PDCAマネジメントサイクル

友・金沢」に加え、小中学校のPTA・育友会と金沢河川国道事務所が協働し、小中学生と保護者が校下の道路状況について現地調査と調査結果の取りまとめを行い(写真-1)、快適な道、安全な道、危険な道を色分けした自転車・歩行者安全マップ(図-1)を制作する活動に発展させた。

調査結果をまとめると、「歩道に段差がある」「見通しが悪い」「歩道の真ん中に電柱がある」「自転車や児童の目線に立った標識やサインが少ない」等、道路の構造や交通環境によるものが挙げられた。また、「道路が狭いのに駐車違反車両が多い」など、車や自転車の運

転者のマナーに関する問題点も多く指摘されている。

<交通安全マップ制作経緯>

- ◇H14 森本地区自転車・歩行者交通安全マップ(金沢市立森本中学校校下)
- ◇H15 なるわ環境マップ(金沢市立鳴和中学校校下)
- ◇H16 金沢城下町マップ(金沢市立小将町中学校他5校下)
- ◇H18 金沢駅西セーフティー4マップ(金沢市立長田町小学校他3校下)

2-2. 【D○】 調査結果に基づき意見交換会→危険箇所改善に反映

出来上がった交通安全マップは、制作に協力した小中学校の全生徒に配布し、交通安全の啓発に活用している。これまでの協力者は約4,500名、配布部数は15,200枚に上る。また、調査結果に基づき、地球の友・金沢、小中学校のPTA・育友会、石川県警察本部、道路管理者(国・県・市)が一同に会した意見交換会を実施している。

平成17年8月4日の意見交換会(写真-2)では、PTA・育友会より、地元住民でなければわからない詳細な調査結果と改善提案について発言していただき、行政側が対策等について回答すると



写真-2 意見交換会の状況



写真-3 改善箇所の一例

通学路の変更に伴い、利用者がほとんどいない横断歩道橋の橋脚が歩道利用者の支障となっていたため、横断歩道橋を撤去し、歩行空間の改善を図った。

いう進め方で意見交換を行い、これまでの改善状況を金沢河川国道事務所より報告した。

危険箇所の改善については3年以内を目標に、緊急に対策が必要な箇所や対策可能な箇所から順次改善していくこととした。一方、諸般の事情ですぐには対策が困難な箇所については、その理由を説明し、相互理解を深めた。

2-3. 【Check】改善状況等をまとめた「道の点検簿」をホームページで情報公開

平成17年度は、交通安全マップを制作ただけで危険箇所を放置するのではなく、危険箇所改善に重点を置いた。県警、道路管理者（国・県・市）が危険箇所毎に回答した「3年以内の改善案」と「現在の改善状況」をまとめた「道の点検簿（改善状況チェック簿）」を作成し、ホームページで情報公開した他、交通安全マップ制作の中心的メンバー75名を対象に「マップ作成や危険箇所改善の今後の進め方」「交通安全意識の変化」「行政への意見要望」などをアンケート調査した。

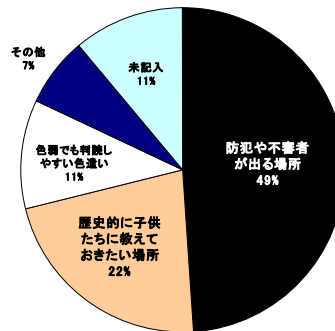
2-4. 【Action】未改善箇所のフォローアップ実施

今後とも道の点検簿を有効活用し、未改善箇所のフォローアップを行い、早期改善を図るとともに、ホームページやアンケートに寄せられた「不審者出没地点を記載」「色覚障害者にもわかりやすい

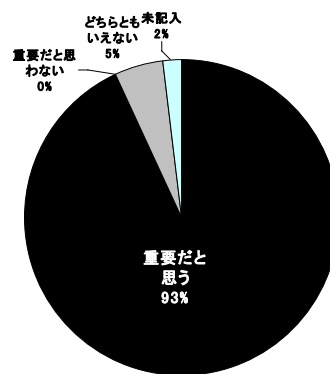
色彩に改善すべき」などのご意見・ご要望なども参考に、交通安全マップの取り組み方針を決定したいと考えている。

【アンケート結果の一部】

<Q:交通安全マップの改善点>



<Q:住民と行政の協働>



3. まとめ

道の点検簿は有効なマネジメント手法

悲惨な交通死傷事故を1件でも減らすためには、①地域住民と協働し、行政だけではわかりにくいきめ細かな危険箇所情報を把握すること。②関係する行政機関が具体的な目標を持って計画的に改善すること等が極めて重要である。

また、③地域住民が望む改善提案を踏まえ、関係機関が危険箇所の改善計画を立案し、危険箇所の改善状況が随時チェックできる仕組みである「道の点検簿」は、有効なマネジメント手法だと考えて

いる。

4. おわりに

行政は善意に頼らず、ビジョンのもとで市民と協働すべき

これまでの道路行政においては、市民団体とどのようにつきあっているかがわからず戸惑ってしまう傾向があった。しかし、今回の協働でその悩みは払拭されたように思う。

市民団体「地球の友・金沢」からは、「住民は、行政に甘えるのではなく、私たち自身が行政サービスや市政に関心を持つ必要があるということ認識しなければならない」「行政はボランティアの善意に頼るのではなく、ビジョン（目標）のもとで市民との協働事業や、市民が関わりやすい環境を用意すべき」という積極的な声が聞かれた。

行政もこのようなスタンスで住民と協働することで、より多くの住民に同様の考え方が広まり、行政と住民の信頼感増大、スムーズで効率的な行政、安全で住み良いまちづくりが可能となると思われる。

おわりに、協力していただいた「地球の友・金沢」、金沢市各校下の小中学校「PTA・育友会」及び、関係機関の皆さまにこの場を借りて深く感謝申し上げます。

※ 「地球の友・金沢」は主に「交通と環境」を中心に市民運動を展開。自転車利用環境向上に向けた取り組みを行っている市民団体（NGO）である。「道の点検簿」の取り組みの他、Co2削減に向けた「2006Ecoサイクルプロジェクト」にも積極的に取り組んでいる。